

 月刊 都響
November 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023
11/5

TMSO Hachioji Series
都響・八王子シリーズ

会場：J:COM ホール八王子

指揮／藤岡幸夫

ピアノ／福間洸太郎

♪ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番 八短調 op.37 (約36分)

♪チャイコフスキー：交響曲第4番 へ短調 op.36 (約44分)

PROGRAM NOTES

ベートーヴェンとチャイコフスキーはともに迫力あふれるオーケストラ音楽を残した大作曲家です。それぞれ、「ハ短調」と「ヘ短調」というシリアスで個性的な表現力がみなぎる作品をお届けします。

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 op.37

ドイツのボンで生まれたベートーヴェン（1770~1827）は、大作曲家ハイドンに作曲を習うため、22歳とのきに音楽の都ウィーンへと引っ越します。最初は優れたピアニストとして、そして徐々に自分のピアノソナタやピアノ協奏曲を作って、彼はだんだんとウィーンで人気を獲得していきました。



ベートーヴェン

このピアノ協奏曲第3番は、ベートーヴェンがウィーンに暮らして10年が経った1803年に発表されました。この曲よりも先に作られたピアノ協奏曲の第1番や第2番では、まだハイドンやモーツァルトといった先輩たちの曲に似た、さわやかで軽快な音楽でした。しかしこの第3番は違います。ハ短調という、ピリッと引き締まる調性で真剣な表情を持たせ、のちの大傑作である「運命」交響曲ともつながりを感じさせる、個性的な協奏曲に仕上げたのです。

第1楽章は、まずオーケストラが1つ目のシリアスなテーマを提示したあと、2つ目の柔らかなテーマを聴かせます。再び深刻な雰囲気になったところで、ピアノがハ短調の音階を3オクターブ力強く弾いて登場します。ピアノとオーケストラはときに互いに掛け合いながら、ときに一体となって、キャラクターの異なる2つのテーマを鮮やかに展開していきます。曲の終わりでは、ピアノ独奏がたった一人でその腕前を披露する「カデンツァ」とよばれる場面もあります。

第2楽章は、ガラリと雰囲気を変えて、ピアノ独奏が優しく物悲しい音楽で開始します。ピアノに合わせるようにオーケストラが入り、響きは豊かに膨らんでいきます。ピアノとオーケストラは寄り添い、じっくり語り合いながら、穏やかな流れと輝きをたたえた音楽を聴かせます。**第3楽章**は、ふたたびテンポアップします。冒頭にピアノ独奏がメインのテーマを聴かせ、これが雰囲気を変えて何度も登場します。ピアノは広い音域を行き来しながら、生き生きとしたフィナーレを形成します。

チャイコフスキー：交響曲第4番 ヘ短調 op.36

《白鳥の湖》や《くるみ割り人形》などのバレエ音楽で有名なロシアの作曲家チャイコフスキー（1840~93）は、オーケストラの響きが見事に広がる交響曲を全部で6曲残しています。第4番は1877年、彼が37歳のときに作られました。この年、チャイコフスキーはとても重要な人物と出会いました。それはフォン・メック夫人です。彼女は、ロシアに鉄道会社を作った夫が亡くなり、多くの財産を引き継いでいました。チャイコフスキーの情熱的な音楽に胸を打たれた



チャイコフスキー



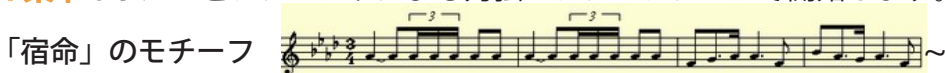
フォン・メック夫人

彼女は、経済的なサポートをチャイコフスキーに申し出たのです。この頃、チャイコフスキーは愛することのできなかつた女性と離婚し、心に傷を負っていました。メック夫人の手紙による優しい言葉に慰められながら、チャイコフスキーはイタリアの美しいホテルで、この交響曲を作曲しました。そして彼はこの作品を「私たちの交響曲」と呼び、メック夫人に捧げています。その後 14 年にわたり、チャイコフスキーはメック夫人のおかげでお金の心配をすることなく、のびのびと作曲に打ち込めるようになりました。二人は直接会うことはしませんでした。音楽や自然や人生にまつわる様々な話題で手紙を送り合い、友情も深めていきました。



若い頃の
チャイコフスキー

第 1 楽章はホルンとファゴットによる力強いファンファーレで開始します。



チャイコフスキーはこれを「宿命」のモチーフと呼びました。**第 2 楽章**はオーボエが哀愁に満ちたメロディーを奏で、弦楽器が落ち着いた音楽でそれに応えます。中間部ではクラリネットとファゴットが活躍する舞曲が現れます。**第 3 楽章**は弦楽器のピッツィカート（弦を指で弾く奏法）の主部に続き、木管楽器の舞曲、そして金管楽器がリードする行進曲が続きます。**第 4 楽章**は激しい曲想で幕を開け、ロシア民謡に基づくメロディーが現れます。クライマックスを迎えると、再び第 1 楽章の「宿命」のモチーフが聞こえてきます。「このように人生は、憂鬱な現実とはかない夢とが絶えず交替するのです」とチャイコフスキーは述べたそうです。

文/飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 藤岡幸夫 Sachio FUJIOKA, Conductor



©Shin Yamagishi

日本指揮者界の重鎮であった渡邊暁雄最後の愛弟子。ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務めた。英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。1994 年「BBC プロムス」に BBC フィルハーモニックを指揮してデビュー以降、多くの海外オーケストラに客演。現在は関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者を務めている。指揮・司会として関西フィルと共に出演中の BS テレ東『エンター・ザ・ミュージック』は今年 10 月で 10 年目に突入、放送 500 回に迫る人気番組。CD シベリウス交響曲全集、著書に『音楽は好きですか？』（敬文舎）などがある。2002 年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

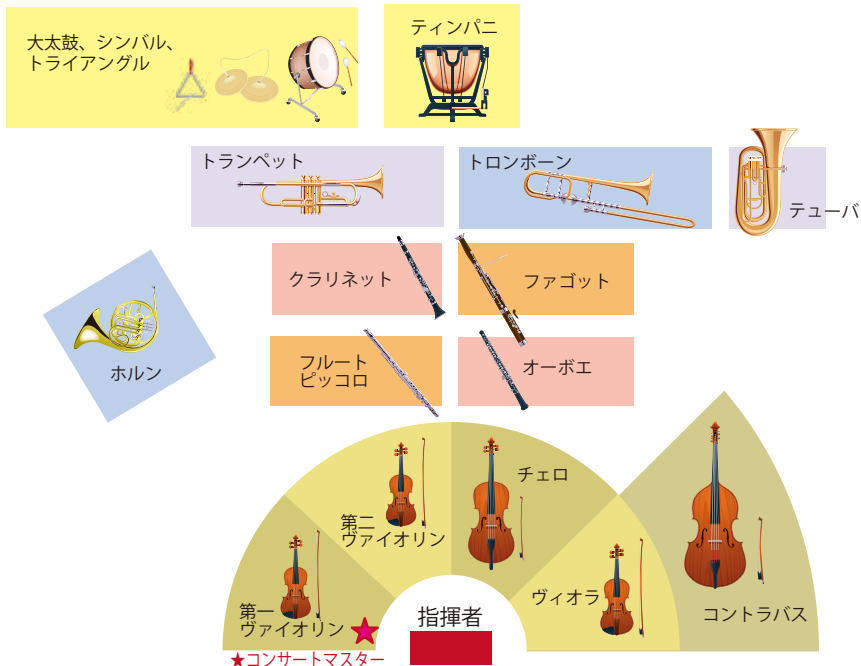
ピアノ 福間洸太郎 Kotaro FUKUMA, Piano



©T.Shimmura

20 歳でクリーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーン・センター、サントリーホールなどのリサイタルの他、クリーヴランド管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、NHK 交響楽団など著名オーケストラと多数共演。CD は多数録音しており、2023 年 4 月 21 日に NAXOS JAPAN より 19 枚目の CD 「幻想を求めて - スクリャービン & ラフマニノフ」をリリースした。多彩なレパートリーと表現力、コンセプトフルなプログラム、また 5 か国語を操り国内外で活躍中。第 39 回日本ショパン協会賞受賞。公式サイト <https://kotarofukuma.com/>

オーケストラ配置図（11月5日 都響・八王子シリーズ）



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO

東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として1965年に東京都が設立しました。**都響（ときょう）**という愛称で親しまれています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。



© Rikimaru Hotta

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。